

令和3年度の事業報告書

令和3年4月1日から4年3月31日まで

特定非営利活動法人 居場所創造プロジェクト

◎ 事業の背景

居場所ハウスは、2013年6月のオープンから9年目を迎えた。令和3年度は、少子化や高齢化の進展及び新型コロナの感染拡大の収束のみえない社会情勢となった。その中で、岩手県感染防止対策認証店に認定を受けながら、コアメンバーがそれぞれの役割を担いながら、少子化・高齢化・転居など加速する環境の変化に対応してきた。

また、各種事業の具現化及びその意識を高めることを最重点に掲げ、主にコミュニティ支援事業や地域文化の継承事業などを推進し、包括的支援及び地域の活性化に貢献した。

なお、子どもの行事・催事の中止・人数制限による事業縮小により、多世代交流館として活動・運営体制を取りながらの事業展開となった。

1. 事業の成果

令和3年度は、県及び市からの安心認証飲食店支援金・大船渡共生まちづくりの会支援金・未来かなえ機構・大船渡市高齢者交流事業補助金・会費及び事業収益の活用により、居場所ハウスの人員体制・財政基盤(組織基盤)の活動・運営を図ってきたところである。

また、コア・ボランティアメンバー・会員、各種団体等の支援・協力に加えて、地域の高齢者等を中心として、それぞれの役割を果たしながら各種行事を円滑に推進し、コミュニティの復活・形成及び伝統的な季節文化の継承等に努めながら、地域包括的役割を果たして来たものであり、今後を期待を抱かせるものと考えられる。なお、高齢化に伴い体力的な不安もあり、働き方をきめ細やかに確認することが肝要と考える。

「居場所ハウス」の来訪者は末崎町民が多いが、町外からも訪ねてくる現状である。こうしたなか、交流・楽しみながらできる各種講習会・教室等を組み入れたことで、親しみ・ふれ合いが図られ、「うるおい」のある日常生活環境が促進されたものと確信する。

◎来訪者数 5,072人(昨年より 324人・0.94%減) 一日平均の来訪者数は 17.1人(昨年より 1.7人・1.1%減)

なお、コロナ感染拡大防止のため、岩手県感染防止対策認証店に認定を受け、パネル板・消毒スプレーの設置・換気などの対策を講じながらの運営・活動をしたが、一時休館や各種催事、子ども対象の行事を中止、人数制限の開催となり来訪者が減少したことは、新型コロナの影響が大きく表れた形となった。

(1) 活動・運営の継続強化

① 令和3年度は、協力者・支援者(ボランティア等)及びパート雇用により、多世代が「ふれあい・育む・楽しむ」場所として、町民の来訪・利用者及び居場所ハウス各種事業の準備・開催に随時対応したことは、活動・運営の継続の力となった。

また、居場所ハウスの果たす役割の重要性を考え、「共に考え共に学び共に担う」ことをスローガンに、継続運営のため、役割分担の再認識及び各担い手の高齢化による人材の確保に努め、活動・運営することが、さらに求められているものとする。

今後は、コアメンバー・ボランティアメンバーや参加者等の声を聴くこと及び継続の意義、意識等の向上に努めるとともに各種団体との連携等を一層強化することが期待されていると考える。

また、多世代が安心・安全に来館出来るようにするには、パネル板・消毒スプレーの設置・換気などの対策をより一層強化しながら継続運営することが肝要と考える。

なお、居場所ハウスの訪問者及びテレビ岩手様のDVD制作やテレビ放映による反響は大きく、今後の居場所ハウス運営・活動の進展につながるものと確信する。

②定例会の開催

毎月1回、当月の運営状況と翌月の行事予定や課題及び改善点等について、報告・協議を実施してきた。今後も、定例会の趣旨を理解し、様々な事を話し合うことが、円滑な運営・活動につながると考える。

また、新たに外部団体にも、定例会に参加してもらい居場所ハウスの運営・活動の助言・提案をいただき、今後の活動の参考としたい。(現在は、末崎町婦人会、共生地域創造財団が参加)

なお、12月と2月にいわて復興連携センター・大船渡市民活動センターの職員の協力・主導により、ワークショップ等を実施し、活動・運営の継続に向けた課題解消のサポートがあった。

③コアメンバー・ボランティアによる活動・運営に対する支援

食堂の運営では、パートとボランティアの雇用・協力により、清掃業務や食事の調理を担当し、多くのメニュー・弁当・たこ焼き等のおやつを作ってきた。これらの発想・改善による食堂の利用者を増加することが期待される。

また、朝市・サロン・各講習会・教室・小枝柿・椿の殻むき作業等では、コアメンバーやボランティア団体等による支援・協力により、円滑に推進したところである。このような有効的な体制を構築し継続するために、今後も多くの町民の皆さんに向けて、仲間同士で積極的に声掛けし、コアメンバーやボランティア・支援団体等の拡大に努めながら、継続的・効果的な施設運営を図ることが肝要と考える。

(2) 組織体制の確立(財政基盤・人材育成)

NPO法人居場所創造プロジェクトは、高齢化・少子化・人口減少に加え、コロナ感染の収束の見えない社会情勢のなか、組織体制の確立や人材育成を推進するため、いわて復興連携センター、大船渡市民活動支援センター及びシニアパワーいわての指導を受け、組織体制の確立に認識を強く持つことが出来たことは効果的だった。

なお、正会員・賛助会員の拡大・町外企業寄附の勧誘に加えて自主事業の改善及び民間の委託事業の受託強化による自主運営により運営資金の獲得に努めたが、今後は、社会情勢が厳しい現状を鑑み、正会員・企業寄附の勧誘等の方策が早期に求められる。

また、町内の人口減少・少子化・高齢化、特に高台移転は、6年目を迎えているが、高齢者世帯が増加しているため、心のケアや孤立の防止及びコミュニティの構築のため、居場所ハウスへの役割が期待・要求されることから、さらなる組織基盤(資金・人員)の確立及び支援者・協力者との連携・確保が肝要である。

※個人からの継続寄附金等は、綾川正子様・久保田了司様・鈴木雅子様他からの送金があり、貴重な運営資金となっている。

(3) 8周年記念感謝祭・朝市合同開催

6月15日(火)、居場所ハウスがオープンから8周年を迎えたことから日頃の感謝及び地域住民とのより一層のコミュニティの再生や地域活性化の進展及び居場所ハウス利・活用に対する、支援・協力への感謝を込めて8周年記念感謝祭を開催する予定をしていたが、全国的に新型コロナウイルス感染の収束がみられない様相から、感染拡大の防止の観点から自粛を余儀なくされ、2年中止したことは非常に残念な思いである。

(4) 朝市の開催

朝市の開催は、毎月第3土曜日に、平均11店舗以上の出店があり、居場所ハウスのメンバーやボランティアの皆さん(約20名・準備含め)の協力により、賑やかに充実した内容で開催されている。

朝市は、町内外からの出店があり、農園等の野菜・果物・小枝柿・生花・海産物・果物・野菜・自家製パン・衣料品・履物・鮮魚・郷土食品・乾物・オリジナル焼き鳥・おでん・くるみ・石やき芋・たこ焼き・刃物研ぎが出店している。時折、軽ワゴンでの送迎も実施しており、毎回平均60名の来場者で賑わっている。

このことは、地域の食生活環境の向上や親睦交流の場となるとともに、つながり・ふれあい場の創出及び

新たな地域コミュニティの復活や地域の活性化に貢献されているものと確信する。

なお、コロナ感染拡大を懸念し自粛している傾向や悪天候により、2月から来場者数は減少しているため、手の消毒マスクの着用等感染拡大防止や県の認証店等を周知しながら開催継続することが肝要と考える。

(5) スマイル食堂の運営

震災から10年を過ぎた今でも、近隣地域(高台移転住民)には、気軽に食事・配達ができる飲食店がほとんどないため、日常が暮らしにくい食生活環境となっている。そのことから、2015年5月に食堂をオープンした。居場所ハウスの支援者やボランティアの皆さんの協力及びメニューなどの充実・改善を重ねて、配達・テイクアウトを含めた昼食(木曜日休み)を提供してきたことは、日常生活において地域住民・高台移転住民の食生活・利便性の向上及びふれあい・見守りの機会となっている。

なお、コロナ感染拡大を懸念し自粛している傾向から、12月から利用人数は減少している。

(利用者数延べ2,807名・平均利用者数9.5%(利用者数昨年より31人増・1.0%増)

今後も、メニュー等の改善・発想により、高台移転住宅・各作業所にチラシ等で配達等を周知し、皆さんに喜ばれるスマイル食堂を目指すことが求められていると考える。

継続運営には、高齢化等による調理メンバーの確保及び活用方法(子ども食堂への貸し出し)が課題となっているので、居場所通信への掲載や町内外に向けた声掛け等による新たな人材確保が肝要と考える。

なお、4年3月から、真心を込めた味がする、手作りおやつ(みたらし団子・サンドパン・いなりなど7種類)をつくり、ワカメ・農作業の休憩時に楽しく休んで作業にはずみをつけてもらうことや居場所ハウスのイメージを図った。

(6) 居場所農園づくり

居場所ハウスでは、2015年の夏から「居場所農園」をつくり、朝市での販売や食堂で使用するため、多種類の野菜をつくり育ててきた。3年度は、加えて随時居場所ハウス前で販売を開始し、イベント参加者や地域住民等の食生活の一助となった。

今後は、町民及び小学生や高台移転者を対象に、体験型収穫・軽農作業の声掛けや耕作野菜の食事会の開催及び多種類の野菜耕作を行い、楽しい農作体験場やふれ合いの場の創出及び食生活環境の向上・支援に努めることが肝要と考える。

(7) こどもの日鯉のぼりまつり

5月3日に鯉のぼり子ども祭りを開催し、こどもの健やかな成長を願って笑顔で楽しく触れ合い、より一層絆を深めること及び交流の場の機会の提供に努め、楽しく開催する予定であったが、コロナ感染拡大防止の観点から、2年間やむなく中止とした。

なお、5月1日(土)に10時から13時30分まで、子ども広場を開催した。約85名の参加者があり楽しい一日を過ごした。4年度は、鯉のぼり子ども広場とし、縮小開催できれば楽しい行事となるものとする。

(8) 居場所ハウス納涼盆踊り・七夕飾り・ひな祭り・ミズキ団子の飾り設置

①8月15日に納涼盆踊りを開催する予定のところ、コロナ禍にあり感染拡大の終息が見えない社会情勢から感染拡大防止のためやむなく2回目の中止とした。

②7月2日(金)の七夕飾りでは、2m以上の竹に、居場所健康サロンの参加者11人が協力してさまざまな色の短冊や色紙で形どった折り紙をつくり、それぞれの願い事を吊るして完成させた。健康サロンの活動の一環として作製した。コロナ禍にあるので、一部の来館者には、手作り短冊をつくり飾ってもらった。

③2月13日(日)ひな祭りの開催では、古くから伝わる伝統文化を継承することが大切であるとの思いから開催した。七段飾りのひな人形と昔の土作り雛人形や地元の高齢者等が作ったつるしびなの設置で会場を華やかに彩った。コロナ感染拡大から自粛傾向にあり来場者は少なかったが、新聞等で周知したことから時折来場者も増あり綺麗ですねと感嘆する人あった。

今後も、薄れ行く伝統文化の継承のため、工夫、協力を得ながら充実したひな祭りとし、喜んで見てもらうよう積極的に推進して行きたい。

④1月12日(水・祝)、ミズキ団子づくりは、近年、地域では行われなくなってきた小正月行事を伝え、楽しんでもらうために設置した。3年度は、健康サロンの行事と位置付け、老人クラブの皆さんにミズキ団子を作ってもらい、米粉を3色に丸めて大きな水木1本と小枝数本に飾った。地域に根付かせる文化として、親子等を交えての開催をするなど、今後も継続して行きたい。

(9) 物づくり手芸教室

・毎月第3火曜日、13:30~15:30分まで、陸前高田市の徳山恵美子さんを講師として、手芸教室を5月18日(火)から3月26日(土)までの計11回の開催。日常生活にうるおいと生きがい及び手芸を楽しむため、生活感あふれる身近な手芸品を中心に、多くの作品を完成させた。今後も手芸の奥深さや楽しさを知ってもらうため、町内外の多くの皆さんに参加を呼びかけ、普及に努めたい。

(10) 居場所親子物づくり教室

①例年、夏・冬・春休み親子物づくり教室の開催をし、どこ竹 in まっさきの皆さん他の協力を得て、親子物づくり教室を開催していたが、コロナ感染拡大防止のため子ども行事はやむなく2回目の中止とした。令和4年度は、コロナの感染対策を講じながら、親子物づくりは1~2回は開催を実現したい。

(11) 絵手紙教室

11月28日(日)、地元の桑原サキ子さんを講師として絵手紙教室を開催、町内から8名が参加した。参加者は始めに輪郭を描くための筆遣い等を学び、その後は、野菜・果物をモデルに温かみと各自の個性がある絵手紙を完成させた。難しいと言いつつも充実した表情を見せながら、絵手紙の魅力を感じとった様だった。

活動の一端を多くの皆さんに見ていただきたく、居場所ハウスと細浦郵便局に展示した。今後もコロナ感染情勢を見ながら開催に向けて、町外にも参加を呼びかけ、多くの皆さんに絵手紙の楽しさを普及して行きたい。

(12) わらしっこ見守り広場(子ども一時預かり) (2年目中止)

居場所ハウスでは、子ども・子育てを支援するため、毎週土曜日・振り替え休日の月曜日・学校行事等による臨時休校日の10時から16時まで、元教員と保母を中心に、わらしっこ見守り広場を開設している。

3年度は、子どもの行事はコロナ禍にあり、感染拡大を防止するため、わらしっこ見守り広場の主催行事は、2年目も中止とした。時折来館する子供の見守りは、職員で距離をとっての見守りとなった。

(13) 8周年記念感謝祭映画会・震災ビデオ映画会・テレビ放映の開催

◎6月12日(土)居場所ハウス8周年記念行事として「東北おんぼのうた、つなみの浜辺で」映画上映会を開催した。詩人の新井高子さんが、大船渡市に住む79歳から100歳の5人のおんぼ(おばあちゃん)たちと対話しながら、苦勞を乗り越え朗らかに生きる様子や、三度の津波にあってもなお海と共に生きる人生などを聞き取りした内容である。

子ども時代のこと、津波の体験などをケセン語で語り、詩の朗読や愛唱歌が流れる中で、人生を朗らかに語る強くたくましいおんぼたちの人生訓に多くの参加者たちはしみじみと感銘を受けた様子であった。25名参加と多くの観覧者があった。

○3月11日(金)テレビ岩手制作「たゆたえど沈まず」は、震災直後から撮影し続けたドキュメント番組で、居場所ハウスでは、震災から11年を迎えることによる震災ビデオの映画会を開催した。

これは東日本大震災から11年の間、過酷な現実に翻弄され葛藤しながらも必死に苦難を乗り越え、震災の経験を忘れることなくこれからの人生を楽しく前向きに生活をして行くことを力強く話す姿が映しだされ、心に大きく響く上映会となった。また、地震等の災害に対する意識を高めることの大切を教えられた映画会

でもあった。参加者 16 名

○3月11日(金)に岩手日報社の震災から11年の支援に対する「広がるありがとうの輪」特集が生まれ、居場所ハウスと遠距離である高知県の形見さんからの「文且」による交流支援が続いている記事の掲載があり、改めて交流支援の大切さと感謝の念を抱かされた記事となった。

・1月29日(土)と3月19日(土)の2回にわたり、テレビ岩手ニュースプラス1」特集「イーハトブ5つのものがたり居場所ハウス」の番組により、オープンから現在までの活動の様子が紹介された。多くの皆さんからの反響があり、活動・運営に対する意識の高まりと励みとなった。

(14) 健康体操・ノルデックウォーキング

健康体操は、地元の熊谷侑希さんを講師として、町民の皆さんに毎日を健康で楽しい日常生活を過ごしてもらうために企画している。毎月第2日曜日開催しており、軽体操から始まりボールを使った体操などによる、体と頭を使い脳の活性化となり楽しく実施している。参加者は平均10名である。

また、ノルデックウォーキングは、赤崎町の今野オワ子さんを講師として開催。毎月第4月曜日に開催しており、準備体操後に、皆さんが歩けるコースを決め、景色を見て会話をしながら、心地よい汗を流し楽しいウォーキングとなっている。参加者はコロナ禍による自粛もあり、参加者は平均8名である。

(15) 居場所健康サロン

毎週水曜日、10時から12時ころまで、峰岸地域の木村満枝さんや市包括ケア推進室の協力により、高齢者を対象に、心身のケア・生活不活発病・認知症を防ぎ、日常の生活を健康で暮らすために、居場所健康サロンを開催した。体操・様々な頭の体操・モルック・ボッチャのゲーム等・お楽しみ会・紙芝居・百歳体操・イベント参加等趣向をこらし実施しており、交流するなかで触れ合いも生じ、平均10名の参加があることは嬉しい、毎回楽しい健康サロンとなっている。このことは、日常の健康維持にも大いに役立っているものと確信するので継続していく。(健康サロン年延52回開催)

(16) 高齢者の買い物送迎・代行

末崎町内には商店が少なく、高齢者にとっては車を運転出来なかったり、バス停や駅まで距離があるなど、買い物に出にくい地域課題を抱えている。こうした課題を解消できればと朝市を開催しているが、さらに2019年7月に買い物送迎・代行を企画した。買い物送迎・代行は、居場所ハウスを出発し主に平、中野の各地域から希望者を乗せ、大船渡町の中心市街地で買い物後、再び乗車地点に帰る。

10時から12時頃まで毎月第4金曜日に、社会福祉法人典人会からバスを借用し実施しており、とてもありがたいと喜ばれている。今後も周知の徹底や声掛けを実施し、継続して行くことが肝要と考える。

令和3年度の送迎利用者 11回開催・延べ92人参加・1回あたり8.4人参加

(17) 歌声喫茶

従来は、毎週第3火曜日、日常生活を健康で楽しみながら、うるおいのある生活を過ごすために、歌声喫茶を開催していた。毎回大きな歌声をひびかせながら楽しく実施していて、歌声喫茶で触れ合いも生じ、楽しい健康的な歌声喫茶となっている。参加者も時折増えることもあり増加傾向にあったが、コロナ感染拡大防止の終息が見えない地域情勢から感染拡大防止のため、やむなく2年目も中止とした。令和4年度は、コロナ感染防止対策を講じながら、数回の実施を目指したい。

(18) スマートフォン教室

8月29日、9月6日、9月13日、9月27日、10月18日、10月25日の6回にわたり、市地域おこし協力隊の根本さんを講師として、前半は、基本的な操作方法をスライドを使用し、丁寧にわかりやすく説明した。後半は、ラインの操作方法など様々な使用方法の指導があった。受講者の多くは自分が必要範囲の操作方法は学んだ様子であった。また、受講者によっては新たな操作方法を学んだようで、大変効果があり有意義な

教室となった。今後も、スマートフォンの普及が進む傾向にあるので、特に高齢者等の教室を開催することが求められるものとする。 6回・延べ50人受講

(19) ピザの日設定

毎月第2日曜日、毎回10時から13時30分頃まで作っている。高齢者だけでなく若い世代に居場所の存在・活動を知ってもらうことやピザのおいしさを知ってもらうために実施。毎回平均して30個の注文があり大盛況であった。実施に値するピザづくりであり、今後も継続実施し、ピザのおいしさと注目度を広げたい。

(20) 秋の夜空観察会

10月24日17時30分～19時まで、秋の夜空観察会を開催した。講師は宙詠みサークル・朔の柳谷代表と会員を講師として、参加者は、秋の星座を眺め、遠く離れた宇宙に思いをはせた。今回は、天体望遠鏡で金星や木星や土星などを観察。天候にも恵まれこの日は、夜空いっぱいになり輝く星座を堪能でき、天の川や人工衛星、流れ星も見ることが出来た。皆さんに夜空の美しさや星団を観察することの楽しさを知ってもらいたい。21名参加

(21) やぶ椿のタネ回収と殻むき・小枝柿の作業

①2019年から毎年、市の産業であるやぶ椿の種の市内からの受取回収作業を実施している。市民から受付け買い取り後、業者より椿の殻むきを受託。サロン等の高齢者やコアメンバーによる殻むき作業を実施後、活動資金に生かしている。また、地元産の椿の良さを知ってもらうため、椿オイルの委託販売コーナーを設けている。

②約1か月にわたり、気仙ころ柿の収穫から販売まで、居場所ハウスコアメンバー・婦人会・老人クラブの皆さんにより、収穫、皮むき作業を実施し、朝市や業者等に販売したことで、大きな運営資金の一助となった。令和4年度も、地域に居る柿の知識者との連携を深めながら、自主事業の一環として活動することが肝要と考える。

(22) 施設使用・活用

居場所ハウスは、午前10時から午後4時まで開館、各種団体等に利用・活用されている。特に、細浦地区お茶っこの会、老人クラブ、任意団体の会議などの利用があり、大変有難いと思っている。

今後も、その都度声掛けを励行し利用の増加につなげたい。なお、コロナ感染拡大に対応すべく市の特別期間の設定や末崎町内からの感染による影響で使用が激減したことは非常に残念である。

また、午後4時から午後9時までの利活用を普及促進し、利便性の向上に努めてきた。30年度から子どものエンパワメントいわてが、火・金曜日「学びの時間」で使用しており、利活用が図られている。(利用日46日・延べ158人) 今後も、居場所通信や使用者等に周知し、より一層の利活用に努めるものとする。

(2021年度延利用人数5,072人・延運営日296日)

(23) 居場所ハウスの建物等修繕

居場所ハウスも、オープンから8年を経過し、特に月見台の腐食及び外部の塗装部分の剥離等が目立ち、腐食の防止を図るため、①月見台の改修、塗装 ② 食堂脇の柵改修 ③外側柱塗装修繕 ④外ベンチ・懸垂塗装を行った。

(24) 寄付金・助成金等の活用

地域の様々な人々が、誰もが気軽に立ち寄り、自分なりに役割を持ちながら、楽しく自分らしくいられる「居場所」をモットーに建設された、多世代交流館居場所ハウスの運営・活動に対する会費・寄付金・助成金等により、以下の主な事業を実施した。

- ① 有給ボランティア3名及びパート雇用延べ4~5名による、事業運営、活動・日常の施設等の維持管理に対する経費とした。
 - ・パート・有給ボランティア賃金 1,963,110円・福利厚生費 317円
- ②各催事・講習会・教室等の謝礼や必要とする物品、材料等の購入により、事業開催等の運営・活動を効果的に実施した。
 - ・諸謝金 564,000円
- ③ 地域住民や高台移転者及び来訪者に対する食事の提供用と一年間分の材料を購入し、食堂運営を行った。
 - ・食材費 522,186円
- ④ 一年間の講習会・教室等のチラシ印刷により、各種事業の告知や居場所通信・行事予定表の発行を行い、多世代交流館居場所ハウスの普及宣伝に努めた。
 - ・印刷製本・消耗品費 361,997円（コピー代含）
- ⑤居場所コミュニティカフェの運営に関わる、コーヒー・ゆず茶・ソフトクリーム等を来館者や行事参加者に提供し、親睦交流やふれあいの場の提供に努めた。
 - ・コミュニティカフェ材料費 41,818円
- ⑤ 居場所ハウスや食堂で使用している水道・電気・ガス・電話・インターネットを使用して、各種事業の開催や多世代交流館居場所ハウスの運営・活動を実施した。
 - ・水道光熱費 502,025円・通信運搬費 136,364円
- ⑥ 居場所ハウスが元年度に購入した軽車両は、イベント送迎や各種用事に使用した。
 - ・車両費 125,789円

(25) 各種講習会と教室等の開催（居場所ハウス主催他関係）

- ①居場所創造プロジェクト理事会
 - ・5月7日（金） 11:00~12:00 7名の参加者
- ②末小ミニバスパーベキューの会(末小ミニバス親子会主催)
 - ・7月25日（日） 10:30~14:00 23名の参加者
- ③ボッチャ体験教室
 - ・8月10日（土） 10:00~12:00 20名の参加者
- ④認知症と折り合いをつけて生活し続けるための関わり(オンライン会議システム講演会)
 - ・9月23日（月） 10:30~11:30 13名の参加者（市包括ケア推進室主催）
 - ・認知症本人や家族が不安をやわらげながら生活を送るなどのアドバイスがあった
- ⑤新そば打ち体験講習会の開催
 - ・12月8日（日） 10:00~12:00 11名の参加者
- ⑥百歳体操
 - ・3月22日（火） 10:00~11:30 5名の参加者
- ⑦健康マージャン体験指導会
 - ・3月29日（火） 10:00~12:00 健康マージャン体験指導会 10名の参加

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
地域コミュニティ支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流イベント・講習会等の開催 ・交流スペースの運営 ・委託商品の販売 ・椿種回収、小枝柿づくり 	3年4月1日 ～ 4年3月31日	居場所ハウス	延717人	末崎地区 周辺住民 及び不特定多数延 2,097人	4,331
学術、文化、芸術振興推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書スペースの提供 ・雑祭、七夕祭、水木だんごづくりの伝統文化の継承 	同上	同上	延17人	同上 27人	15
情報提供活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、Facebook、チラシ、地方紙、記録誌を活用した広報活動 	同上	同上	3人	同上	65
	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回通信、行事予定表発行 	同上	同上	2人	町内1,400世帯・来客45人	
調査、研究事業	居場所ハウス開催のイベント、朝市に対する意識をアンケートで調査し、運営・活動に反映	同上	同上	2人	町内全戸 1,400世帯・イベント参加者	5

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
販売支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂開設による居場所ハウスの運営資金獲得及び地域の高齢者等の生活環境向上支援 	3年4月1日 ～ 4年3月31日	居場所ハウス	13人	2,027
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝市開催による郷土食品、野菜、衣類等の販売支援 			186人	59

令和3年度 活動 計算書

NPO法人居場所創造プロジェクト

【税込】(単位:円)

自 令和3年 4月 1日 至 令和4年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	100,000		100,000
賛助会員受取会費	5,000		5,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	256,625		256,625
交流会寄付金	421,076		421,076
【受取助成金等】			
受取公的支援金		200,000	200,000
【事業収益】			
その他事業収益		1,861,475	1,861,475
【その他収益】			
受取利息	55	5	60
雑収益	13,625		13,625
経常収益計	796,381	2,061,480	2,857,861
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
パート賃金(事)		643,110	643,110
ボランティア給与(事)	1,320,000		1,320,000
法定福利費(事)		317	317
人件費計	1,320,000	643,427	1,963,427
(その他経費)			
業務委託費(事)	46,200		46,200
諸謝金(事)	64,000	500,000	564,000
印刷製本費(事)	80,649		80,649
車両費(事)	122,789	3,000	125,789
通信運搬費(事)	136,364		136,364
消耗品費(事)	127,873	108,335	236,208
食材費(事)		522,186	522,186
居場所カフェ材料費(事)	41,818		41,818
修繕費(事)	11,600	7,800	19,400
保守管理費(事)	5,000		5,000
水道光熱費(事)	333,705	168,320	502,025
地代家賃(事)	70,000		70,000
減価償却費(事)	1,892,673		1,892,673
保険料(事)	92,950		92,950
諸会費(事)	10,000		10,000
接待交際費(事)	4,938		4,938
租税公課(事)	11,400	103,800	115,200
支払手数料(事)	8,550		8,550
管理諸費(事)	26,400		26,400
雑費(事)	8,800		8,800
農園経費(事)		29,640	29,640
その他経費計	3,095,709	1,443,081	4,538,790
事業費計	4,415,709	2,086,508	6,502,217
【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
その他経費計	0	0	0
管理費計	0	0	0
経常費用計	4,415,709	2,086,508	6,502,217
当期経常増減額	△ 3,619,328	△ 25,028	△ 3,644,356
【経常外収益】			
経常外収益計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 3,619,328	△ 25,028	△ 3,644,356
経理区分振替額	264,287	△ 264,287	0
当期正味財産増減額	△ 3,355,041	△ 289,315	△ 3,644,356
前期繰越正味財産額	27,533,749	368,087	27,901,836
次期繰越正味財産額	24,178,708	78,772	24,257,480

令和3年度 貸借対照表

NPO法人居場所創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和4年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
普通預金	5,632,999		
現金・預金計	<u>5,632,999</u>		
流動資産合計		5,632,999	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	18,268,221		
車両運搬具	356,250		
什器備品	10		
有形固定資産計	<u>18,624,481</u>		
固定資産合計		<u>18,624,481</u>	
資産の部 合計		<u>24,257,480</u>	
		《負債の部》	
【流動負債】			
流動負債計		<u>0</u>	
負債の部 合計			0
		《正味財産の部》	
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	27,901,836		
当期正味財産増減額	<u>△ 3,644,356</u>		
正味財産計		<u>24,257,480</u>	
正味財産の部 合計			<u>24,257,480</u>
負債・正味財産合計			<u><u>24,257,480</u></u>

令和3年度 計算書類の注記

NPO法人居場所創造プロジェクト

令和4年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

建物：定額法 その他資産：定率法

(2) ボランティアによる役務の提供

ボランティアによる役務の提供は、「活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」として注記しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。

【税込】（単位：円）

科目	特定非営利活動 に関する事業	その他の事業	合計
	居場所 コミュニティ事業	朝市・食菜 販売事業	
(人件費)			
パート賃金(事)		643,110	643,110
ボランティア給与(事)	1,320,000		1,320,000
法定福利費(事)		317	317
人件費計	1,320,000	643,427	1,963,427
(その他経費)			
業務委託費(事)	46,200		46,200
諸謝金(事)	64,000	500,000	564,000
印刷製本費(事)	80,649		80,649
車両費(事)	122,789	3,000	125,789
通信運搬費(事)	136,364		136,364
消耗品費(事)	127,873	108,335	236,208
食材費(事)		522,186	522,186
居場所カフェ材料費(事)	41,818		41,818
修繕費(事)	11,600	7,800	19,400
保守管理費(事)	5,000		5,000
水道光熱費(事)	333,705	168,320	502,025
地代家賃(事)	70,000		70,000
減価償却費(事)	1,892,673		1,892,673
保険料(事)	92,950		92,950
諸会費(事)	10,000		10,000
接待交際費(事)	4,938		4,938
租税公課(事)	11,400	103,800	115,200
支払手数料(事)	8,550		8,550
管理諸費(事)	26,400		26,400
雑費(事)	8,800		8,800
農園経費(事)		29,640	29,640
その他経費計	3,095,709	1,443,081	4,538,790
合計	4,415,709	2,086,508	6,502,217

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

【税込】（単位：円）

内容	金額	算定方法
事務局4名	1,320,000	岩手県の最低賃金をもとに算定しています。

【固定資産の増減内訳】

【税込】（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
建物	31,463,061	0	0	31,463,061	△ 13,194,840	18,268,221
車両運搬具	1,800,000	0	0	1,800,000	△ 1,443,750	356,250
什器備品	2,241,127	0	0	2,241,127	△ 2,241,117	10
合計	35,504,188	0	0	35,504,188	△ 16,879,707	18,624,481

令和3年度 財産目録

NPO法人居場所創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和4年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
普通預金	5,632,999		
現金・預金計	<u>5,632,999</u>		
流動資産合計		5,632,999	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	18,268,221		
車両運搬具	356,250		
什器備品	10		
有形固定資産計	<u>18,624,481</u>		
固定資産合計		<u>18,624,481</u>	
資産の部合計			24,257,480
		《負債の部》	
【流動負債】			
流動負債計		<u>0</u>	
負債の部合計			<u>0</u>
正味財産			<u>24,257,480</u>